イングルヌックにて有三と娘たち（昭和13年冬）

三鷹と有三

企画展

ステンドグラスの洋館から

平成30年 **9月8日【土】** ▶ 平成31年 **3月3日【日】**

休館日
月曜日（月曜日が休日の場合は開館し、翌日と翌々日を休館）
年末年始（12月29日～1月4日）
※9/18・19、25・26、10/9・10、12/25・26、1/15・16、2/12・13は休館

【開館時間】午前9時30分～午後5時
【入 館 料】300円（20名以上の団体200円）／年間パスポート 1,000円
- 中学生以下、障害者手帳持参の方とその介助者、校外学習の高校生以下と引率教諭は無料
- 年間パスポートの有効期限は、交付日から1年間です。受付にてお買い求めいただけます。
- 東京・ミュージアムぐるっとパス2018の利用者は無料で入館できます。

【主　　催】公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団／三鷹市

三鷹市山本有三記念館

企画展

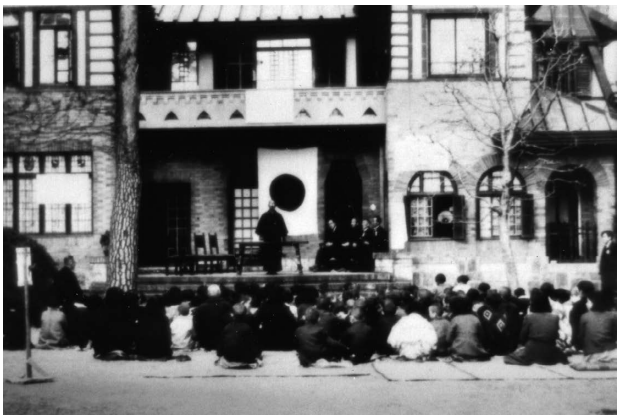
三鷹と有三

－ステンドグラスの洋館から－

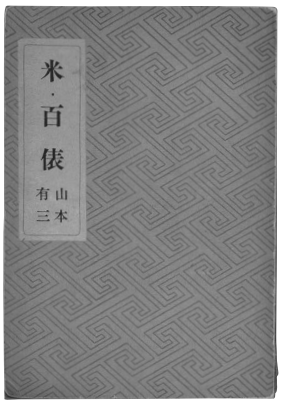
山本有三が三鷹の地に越してきたのは、昭和11（1936）年、作家として脂の乗り切った48歳のことでした。その頃の有三は、「波」や「女の一生」などの連載によって作家としての地位を確立し、また家庭人としても七人家族の大黒柱を務め、家庭を支えていました。作家として、そして家庭人として、それまで住んでいた吉祥寺の家から、執筆に集中できる静かな環境かつ、大家族が住むのにふさわしい大きな家を探していましたが、その二つの条件を兼ね備えていたのが、大正末期に建てられた三鷹村下連雀91番地の洋館でした。

有三は三鷹のこの洋館で、代表作と評される「路傍の石」や「米百俵」を執筆し、時勢が逼迫してゆく中、本を満足に手に取ることのできない子どもたちのために邸宅の一部で蔵書を開放する「ミタカ少国民文庫」の活動を行いました。時代が大きく動こうとする昭和10年代、創作においても家庭においても大きな責任を担いながら、その使命を誠実に果たそうとした有三にとって、三鷹の洋館の存在は大変に大きいものであったと言えます。

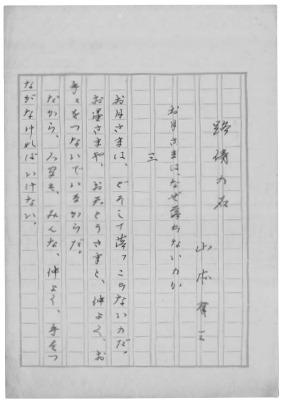
本展では、洋館の来歴や建物の魅力に焦点を当てながら、有三にとっての三鷹の洋館の重要性を探ります。



ミタカ少国民文庫新年会　昭和18年1月



『米百俵』　昭和18年6月　新潮社



「路傍の石」原稿

《ボランティアガイド》 土・日・祝日の午後1時～4時に解説を行っています。事前申込は不要ですので、お気軽に声をおかけください。

第14回 秋の朗読会

文化の日、紅葉深まる秋の記念館で、朗読に耳を傾けませんか。

日時 平成30年11月3日（土・祝）18:00～19:30

［定　　員］35名

［出　　演］瀬戸口 郁（文学座）

［応募方法］往復はがきに①希望する公演日、②参加者氏名（2名様まで）、③代表者の住所・電話番号、④何を見て応募したか、⑤返信用はがきに宛先をご記入の上、当記念館「朗読会係」までお送りください。

［締　　切］**10月11日（木）必着**

※お1人様1応募限り。応募多数の場合は抽選となります。

プログラム等詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

提供：文学座

会場・問合せ

三鷹市山本有三記念館

〒181-0013　東京都三鷹市下連雀 2-12-27

Tel.0422-42-6233　http://mitaka-sportsandculture.or.jp/yuzo/

電車　JR中央線「三鷹駅」南口より徒歩12分
JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」南口（公園口）より徒歩20分

バス　三鷹駅南口よりみたかシティバス「むらさき橋」下車徒歩2分
吉祥寺駅南口より小田急バス「万助橋」下車徒歩5分

公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団
Mitaka City Sports and Culture Foundation